



4月「Medien」 アントニア・シュルト

1. 最近、私のテレビの利用時間が増えてきたような気がします。今朝起きて、アラームが鳴る前の5分間の間、このことを考えて「食べる時間にはもうテレビ見ない！」と決めました。

自分の子供の頃を思い出してみると、テレビを視聴する時間が両親に決められ、平日だと、確か一日に30分を下回ったと思います。それに加えて、食べながらテレビを見ることは決してありえないことでした。今想像してみると、父の告諭する声と母の浮かぬ顔が頭の中に浮かんできます。「一日のことを振り返ながら、食事を大切に、またはおいしく食べる時間ですよ」というようなこと言われたはずです。このセリフが頭から離れません。メディアの多様化と同時に育った私はそこまで厳しく思いませんが、やはり小さい頃に親に擦り込まれたことがべたべたついてしまいますね。いい意味でも悪い意味でも。



4月「Medien」 アントニア・シュルト

2. 年代や家庭による違いがあるというのを前提として、なんとなくドイツ人より、日本人の方がテレビをよく見ると思っていましたが、調べてみたら、そうでもないです。それぞれ、全年代のテレビ利用時間をみてみると、日本人が一日当たり約170分で、ドイツ人が213分だそうです。これに対して、ドイツでも、日本でも、一日にテレビを視聴する人が国民全体で減少しています。特に、若い世代においては一日にテレビを見る人が5割を下回り、約半分が「ほぼテレビをみない」ということが分かりました。

日本の場合は、NHK放送文化研究所が1960年以降5年ごとに「国民生活時間調査」を実施しており、2020年の最新調査では、テレビ視聴が大きく減った若年層では、特にインターネット（ユーチューブ等を含む）を利用する人が増加していると分かります。

私自身のメディア利用を考えると、同じパターンが見られます。平日は朝のニュースと夜の番組以外テレビをあまり見ない一方で、目を閉じるまで携帯をいじります。今読んでいる本でさえ、スマホで読んでいる状態です。



4月「Medien」 アントニア・シュルト

2. 反省してみたら、テレビを見る時間ではなく、携帯の利用時間を減らした方がいいのかもしれませんが、もう少し考えてみると、こうなってきたのは原因があります。携帯をとおしてドイツにいる家族や友達とつながりますので、過当に大事な機械です。テレビは情報の取得と同時に、日本語を学ぶツールの一つとして使用します。

最近ユーチューブでNDRというドイツの北部の公共テレビ放送局のドキュメンタリーを見るようになりました。北ドイツに住んでいて、当たり前だった平坦地の景色を見ると心が癒され、北ドイツの無口な田舎者のしゃべり方を聞くと懐かしく想ってしまいます。そういった使用はすごく大事だと思いますが、雑音のない食事の時間も大事です。これから、このことをもっと意識して、バランスのとれたメディア利用の習慣をつけてみようと思っています。